平成29年度　シラバス

第3学年
商業科
総合情報ビジネスコース

鳥取城北高等学校

教科名	国語	科目名	現代文B	単位数	3単位
対象学年	第3学年	対象コース	総合情報ビジネスコース	履修形態	必修
科目の目標	近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を養う。				
学習内容の概要	近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を養う。				

科目の評価基準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞きとったりして、自分の考えを深め発展させている。	必要な情報を用いて相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。

教科書、教材など	高等学校 標準現代文B(第一学習社)　標準現代文B学習課題集(第一学習社)
授業形態	講義、演習（学級単位による授業）

年間行事計画

学期	月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等
1	4	世界を見つめる 『ワスレナグサ』 星野道夫 『食と想像力』 辺見庸	・作品の主題と自然と人間のかかわりについて自らの考えをまとめ発表する。 ・食という身近なものを新たな視点から見つめ直し、自己に引きつけて考える。	6	授業態度・発問評価・指名音読ノート、学習課題集の提出・定期考査
	5	小説を読む（一） 『話を聞かせて』 山本文緒 『ひよこの眼』 山田詠美	・作品の構成の特徴、「私」の心情の変化について理解する。 ・語り手の視点を意識し、登場人物の心理の変化を読み取る。	9	授業態度・発問評価・指名音読ノート、学習課題集の提出・定期考査
	6	新しい視点 『思い込みの危険性』 安斎育郎 『物語を発現する力』 佐藤雅彦	・具体例と抽象的な記述との関係を理解する。 ・「物語を発現する力」の持つ意味について、自身の体験などに引きつけて考える。	9	授業態度・発問評価・指名音読ノート、学習課題集の提出・定期考査
		詩を味わう 『食事』 高階杞一 『こころ』 萩原朔太郎 『日本海』 草野心平	・各連ごとの展開を理解する。 ・詩の持つ音楽性、レトリックの効果について理解する。 ・擬音語や比喩表現の効果について理解する。		授業態度・発問評価・指名音読ノート、学習課題集の提出・定期考査
	7	生への思索 『経験の教えについて』 森本哲郎 『〈私〉時代のデモクラシー』 宇野重規	・具体例と抽象的な記述との関係を理解する。 ・経験に学ぶことの重要性を、自己の問題として考える。	9	授業態度・発問評価・指名音読ノート、学習課題集の提出・定期考査

2	8 9	小説を読む（二） 『卒業』 魚住直子 『バグダッドの靴磨き』 米原万里	・登場人物の心情の変化を読み取る。 ・少年の一人語りという形式の効果について考える。	3 12	授業態度・発問評価・指名音読ノート、学習課題集の提出・定期考査
		短歌と俳句 『折々のうた』 大岡信	・作品と鑑賞文との対応関係を理解する。 ・短歌・俳句を味わい、鑑賞文を書く。		授業態度・発問評価・指名音読ノート、学習課題集の提出・定期考査
	10	現代と文化 『文化とは何か』 八代京子 『新しい博物学を』 池内了	・具体例と抽象的な記述との関係を理解する。 ・科学の現状と筆者の問題意識について理解する。	12	授業態度・発問評価・指名音読ノート、学習課題集の提出・定期考査
	11	小説を読む（三） 『山椒魚』 井伏鱒二 『山月記』 中島敦	・作品中の物事がどのようなことを象徴しているかを考える。 ・漢文脈を駆使した独特の表現を理解する。	12	授業態度・発問評価・指名音読ノート、学習課題集の提出・定期考査
	12	言語活動 ・情報の探し方 ・報告文（レポート）の書き方	・目的や課題に応じてさまざまな情報を収集し活用する方法を習得する。	9	授業態度・発問評価・指名音読ノート、学習課題集の提出・定期考査、意見文・レポート作成
3	1	・研究発表のしかた ・意見文の書き方 ・要約のしかた	・具体的で正確な報告文を書く。 ・入念な準備に基づいて、整然と落ち着いて発表する。 ・自分の意見をしっかり述べる。 ・筆者の主張を的確に読解し、それを簡潔にまとめて表現する。	9	

教科名	国語	科目名	国語表現演習	単位数	2 単位
対象学年	第 3 学年	対象コース	総合情報ビジネスコース	履修形態	必修

科目の目標	国語で適切に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし言語感覚を磨き、進んで表現することによって社会生活を充実させる態度を育てる。
学習内容の概要	・自分の考えを明確にしてスピーチ、発表、討論などを行う。 ・相手や目的に応じて、案内、紹介、連絡などを文章にしたり話したりする。 ・身近にある様々な表現を集め、その効果について考える。 ・観察したことや調査したことを記録したり、まとめて報告したりする。 ・生徒の表現活動について自己評価や相互評価を行う。

科目の評価基準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
	国語に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現するとともに、伝え合おうとする。	自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ筋道を立てて話したり、的確に聞き取ったりする。	自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章に書く。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	表現と理解に役立てるための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身に付けている。

教科書、教材など	国語必携　パーフェクト演習（尚文出版）　高校漢字必携（第一学習社）
授業形態	講義、演習（学級単位による授業）

年間行事計画

学期	月	項目	学習内容		時間	学習のポイント・評価等
1	4	基礎編 第一編　演習1～5	問題演習		4	音読、発表
	5	第一編　演習6～7	練習問題 問題演習	漢字テスト 短文を意識して書く。	6	聞いてメモを取りまとめる。 400字で考えをまとめる。
	6	第一編　演習8～10	問題演習		6	
	7	発展編 第二編　演習5～8	練習問題 問題演習	漢字テスト 三段構成で書く。	6	生徒同士で作文の批評をし合う。 序論・本論・結論を書くことができる。
2	8	第二編　演習9～10 表現編			2	意見文を書いて発表する。
	9	第四編　演習1～5	問題演習	漢字テスト	8	よりよい表現を学ぶ。
	10	実践編 第四編　演習6～8 第三編　演習1～2	問題演習	論文を書く。	8	文章を推敲する。 600字から800字で小論文を書くことができる。
	11	第三編　演習3～10	問題演習		8	面接を想定した答え方を話し合う。
	12	実用編 第五編　演習1～5	練習問題 問題演習	漢字テスト	6	時事問題について考えを書いたり、発表したりする。
3	1	総復習	問題演習		6	表現力について自己分析をする。

教科名	地理歴史	科目名	世界史A	単位数	2単位
対象学年	第 3 学年	対象コース	総合情報ビジネスコース	履修形態	必修

科目の目標	1 近現代史を中心とする世界の歴史を、わが国の歴史と関連付けながら理解させる。 2 人類が直面する課題を政治・経済・文化・生活など様々な観点から考察させることによって、歴史的思考力を育てる。 3 国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を育成する。
学習内容の概要	近世以前の諸地域世界の特質をつかんだ上で、大航海時代を背景にアジア世界とヨーロッパ世界が接触や交流・進出を深め世界が一体化に向かいはじめる状況を概略的に把握する。また、近現代史以降一体化がさらに進んでいく状況を、わが国と関連付けながら歴史的に理解し、あわせて人類の今後の課題について具体的に考察する。

科目の評価基準（観点及びその趣旨）	a.関心・意欲・態度	b.思考・判断・表現	c.資料活用の技能	d.知識・理解
	近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとしている。	近現代史を中心とする世界の歴史から課題を見出し、世界史的視野にたって多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断している。	近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追求する方法を身につけるとともに、追及し考察した過程や結果を適切に表現している。	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。

教科書、教材など	帝国書院　明解世界史A
授業形態	講義形式とグループ活動

年間授業計画

学期	月	単元	単元の目標	学習内容	時間	評価
1	4	1部　世界の一体化と日本 1章　前近代の諸文明 序節　人類の始まり	各地域世界が形づくられていく過程を理解する。	人類の登場と、農耕・牧畜による食料生産革命。人類が文明を築き、歴史時代へはいっていくありさまを概観。	4	【関】食料生産革命、文明の成立などについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、人類史について考えようとしている。 【思】この時代について考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】先史時代について概観し、人間の進化を把握するとともに、基本的知識を身につけている。
		1節　東アジアの文明	東アジアを通して、日本を含む東アジアの文明の特質を理解する。	東アジアの風土と諸民族、封建制度、漢字文化圏、儒教思想、律令体制、文治主義、冊封体制。		【関】東アジアについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、東アジアの特質について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】日本を含む東アジアの文明の特質を構造的視野から把握し、基本的知識を身につけている。
		2節　南アジアの文明	南アジアの文明の特質を理解する。	南アジアの風土と諸民族と宗教。仏教、ヒンドゥー教、イスラームの影響。		【関】南アジアについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、南アジアの特質について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】南アジアの文明の特質を構造的視野から把握し、基本的知識を身につけている。
	5	3節　東南アジア	東南アジアの特質を理解する。	自然環境や地理的位置に着目。インドと中国の両文明の影響の様子。それぞれの地域での多様な社会と文化。	6	【関】東南アジアについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、東南アジア世界の特質について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】東南アジアの特質を構造的視野から把握し、基本的知識を身につけている。

		4節　西アジア・北アフリカの文明	西アジア・北アフリカの文明の特質を理解する。	西アジア・北アフリカの風土と諸民族。イスラームの成立と拡大・分裂。		【関】西アジア・北アフリカについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、西アジア・北アフリカの特質について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】西アジア・北アフリカがの成立とその特色、地域的な拡大と独自の世界の形成について、イスラーム国家の柔軟性やムスリム商人の役割などを把握し、基本的知識を身につけている。
		5節　ヨーロッパの文明	ヨーロッパの文明の特質を理解する。	ヨーロッパの風土と諸民族。ギリシア・ローマ文明の伝統。キリスト教の発展。封建社会。		【関】ヨーロッパについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、ヨーロッパ文明の特質について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】ヨーロッパの文明の特質を構造的視野から把握し、基本的知識を身につけている。
	6	6節　南北アメリカの文明	南北アメリカ大陸において独自の文化が築かれていたことを理解する。	南北アメリカ大陸の風土と先住民。ヨーロッパが進出する以前の南北アメリカ大陸独自の文化。	6	【関】南北アメリカの独自の文明に対する関心を高め、意欲的に追究するとともに、特質について考えようとしている。 【思】特質を考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】南北アメリカの文明の特質を構造的視野から把握し、基本的知識を身につけている。
		7節　ユーラシアの交流圏	ユーラシアの交流圏が成立していくようすを巨視的かつ視覚的に把握し、相互の文化受容の進展について理解する。	ユーラシア規模の交流圏が成立していくようす。		【関】ユーラシアの交流圏のに対する関心を高め、意欲的に追究し、考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】ユーラシア規模の交流圏の成立とそれを支えた内陸および海域(都市や港市)のネットワークを把握し、基本的知識を身につけている。
		2章　一体化に向かう世界 1節　繁栄するアジア	アジア諸地域の安定した支配と経済の繁栄を背景に、文化も黄金時代を迎えたことを理解する。	アジアのティムール・オスマン・ムガル・明・清などの諸帝国の政治と社会と文化。		【関】アジア諸地域に対する関心を高め、意欲的に追究し、その特色について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】成熟期を迎えたアジア諸地域の特色を理解し、その知識を身につけている。
	7	2節　大航海時代と新たな国家の形成	16世紀頃から始まった世界の一体化への動きと新たなヨーロッパのわく組みとなった主権国家体制の形成について理解する。	ルネサンスと宗教改革、新航路の開拓。16世紀頃から始まった主権国家体制の形成。	6	【関】16～18世紀にかけてのヨーロッパ世界に対する関心を高め意欲的に追究し、考察しようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】ヨーロッパではルネサンスと宗教改革、新航路の開拓を経て主権国家体制が形成され、アメリカではヨーロッパ人による征服と入植・開発が先住民社会の変質を余儀なくしたこと、またアジア貿易への参入やメキシコ銀の流入がヨーロッパ経済の成長と転換をもたらしたことを把握し、その知識を身につけている。

	8	3章　欧米の工業化とアジア諸国 の動揺 1節　ヨーロッパとアメリカの諸革命	市民社会および国民国家の形成が進行したことを理解する。	アメリカ諸国の独立、フランス革命、産業革命。西ヨーロッパとアメリカの産業社会。	2	【関】18世紀後半から19世紀にかけてのヨーロッパとアメリカの諸革命に対する関心を高め、意欲的に追究し近代世界が確立したことについて考えようとしている。 【思】社会の産業化と国民国家の形成により近代世界が確立したことを判断して、一連の思考の過程を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用して、社会の産業化と国民国家の形成により近代世界が確立したことを考察する技能を身につけている。 【知】18世紀後半から19世紀にかけてのヨーロッパとアメリカの諸革命について理解し、その知識を身につけている。
		2節　自由主義・ナショナリズムの進展	自由主義とナショナリズムが進展していくようすとアメリカの発展について理解する。	19世紀後半のヨーロッパ、アメリカ社会。		【関】1848年頃に関心を持ち、意欲的に追究し、考えようとしている。 【思】1848年頃を考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】1848年頃のを資料を収集し、適切に活用する技能を身につけている。 【知】1848年を転換点として、自由主義とナショナリズムが進展したことを理解し、その知識を身につけている。
2	9	3節　アジア諸国の動揺	アジア諸国の動揺のようすを理解する。	オスマン帝国の弱体化やムガル帝国の崩壊。ヨーロッパ諸国のアジア進出とアジア諸国の状況。植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折。伝統文化の変容。	8	【関】ヨーロッパの進出によって引き起こされた変貌に対する関心を高め、意欲的に追究するとともに、その特質について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】ヨーロッパ諸国のアジア進出とアジア諸国の状況など、アジア諸国の動揺を理解し、その知識を身につけている。
		4節　東アジアの大変動	東アジアの大変動を理解する。	アヘン戦争やアロー戦争。東アジアの伝統的な国際秩序が崩壊していく過程。ヨーロッパ諸国の東アジア進出と東アジア諸国の状況。半植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折。		【関】ヨーロッパの進出によって引き起こされた変貌に対する関心を高め、意欲的に追究するとともに、その特質について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】ヨーロッパ諸国の東アジア進出と東アジア諸国の状況、半植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折、その中での日本の対応など、東アジアのようすを理解しその知識を身につけている。
	10	2部　地球社会と日本 1章　現代世界の芽ばえと世界大戦 1節　現在につながる社会の形成	20世紀という時代の特質を把握するとともに、世界の支配・従属関係を伴う一体化と社会の変容を理解する。	交通革命。マス=メディアの発達。企業や国家の巨大化。社会の大衆化と政治や文化の変容。公教育の普及と国民統合。世界の変容。	8	【関】19世紀社会の急激な変化と世界の一体化に対する関心を高め、意欲的に追究するとともに、その特質を人類史的視野から考えようとしている。 【思】考察し、判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し、適切に活用する技能を身につけている。 【知】20世紀という時代の特質を人類史的視野から把握するとともに、人口移動から世界の支配・従属関係を伴う一体化と社会の変容を理解しその知識を身につけている。
		2節　第一次世界大戦がもたらしたもの	20世紀初頭の変化の様相を理解する。	第一次世界大戦。ロシア革命、ソヴィエト連邦の成立。戦争と革命による国際秩序の変化。アメリカの大衆生活とその波及。		【関】第一次世界大戦、平和の意義などに対する関心を高め意欲的に追究するとともに、20世紀初頭の変化の様相について考えようとしている。 【思】考察し一連の思考の過程を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】第一次世界大戦の原因と性格、ロシア革命の展開と影響、戦争と革命による国際秩序の変化、国際協調とヴェルサイユ体制、アメリカ的生活様式の資本主義社会への普及について理解し、その知識を身につけている。

	11	3節　"民族自決"を求めて	"民族自決"を求めたアジアのナショナリズムの動きを理解する。	インド・中東および東アジアの民族運動。アジアのナショナリズム。	8	【関】民族運動に対する関心を高め意欲的に追究するとともに、アジアのナショナリズムの動きについて考えようとしている。 【思】考察し一連の思考の過程を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】第一次世界大戦後の民族運動の動向が世界史の新しい潮流をつくり出したことを理解し、その知識を身につけている。
	12	4節　経済危機から第二次世界大戦へ	第二次世界大戦と20世紀前半の国際政治の流れを概観し、国際関係の変遷と社会の特質を理解する。	第二次世界大戦。及ぼした影響。平和の意義。国際政治、国際関係の変遷と社会の特質。	6	【関】戦争の特質と平和の意義について考え、国際社会に生きる日本人としての自覚をもとうとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】世界恐慌と資本主義の変容、20世紀前半の国際政治の流れ、第二次世界大戦の原因や性格、平和の意義について理解し、その知識を身につけている。
		2章　冷戦から地球社会へ 1節　冷たい戦争の時代	第二次世界大戦後の米ソ対立、アジア・アフリカの民族運動と独立を理解し、核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題などについて考察する。	第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立。アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立。核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題。		【関】大戦後の世界動向について関心を高め、意欲的に追究し考え、国際社会に生きる日本人としての自覚をもとうとしている。 【思】考察し判断した過程や結果について適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立、アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立、平和共存と多極化の進展などを通して、1970年頃までの世界の大きな動向について理解しその知識を身につけている。
		2節　冷戦終結への道のり	米ソ冷戦の終結などから、世界が大きく変容し、今日に至っていることを理解する。	米ソ冷戦の終結。世界の変容。		【関】1970年代以降世界の大きな変容に対する関心を高め、意欲的に追究し考え、国際社会に生きる日本人としての自覚をもとうとしている。 【思】考察し判断した過程や結果について適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】市場経済の世界化、米冷戦の終結などから、1970年代以降の世界の大きな変容について理解し、その知識を身につけている。
3	1	3節　地球社会への歩み	日本が世界の諸国・諸地域と多様性を認め合いながら共存する方向を模索し、これからの国際社会における日本の役割について考察する。	冷戦終結後の世界の政治・経済の動向。これからの国際社会における日本。	6	【関】これからの国際社会における日本の役割、共存する方向について考え、国際社会に生きる日本人としての自覚をもとうとしている。 【思】考察し判断した過程や結果について適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】冷戦終結後の世界の政治・経済の動向、これからの国際社会における日本の役割、日本が世界の諸国・諸地域と多様性を認め合いながら共存する方向について理解し、その知識を身につけている。

教科名	数学	科目名	数学演習	単位数	2単位
対象学年	第3学年	対象コース	総合情報ビジネス	履修形態	必修

科目の目標	数学Ⅰ、Aの問題演習を通して数学の基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を養うとともに、応用問題に対応できる力を身につけさせる。
学習内容の概要	数学Ⅰ、Aの基礎的な内容を確認しながら、就職・公務員試験レベルの演習を行う。

科目の評価基準（観点及びその趣旨）	A: 数学への関心・意欲・態度	B: 数学的な見方や考え方	C: 数学的な表現・処理	D: 数量・図形などについての知識・理解
	数学Ⅰ、Aの基礎的な内容に関心をもつとともに、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学Ⅰ、Aの基礎的な内容における数学的な見方や考え方を身に付けている。	数学Ⅰ、Aの基礎的な内容において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数学Ⅰ、Aの基礎的な内容における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。

教科書、教材など	問題集:リンク数学演習Ⅰ・A(数研出版)、プリント教材
授業形態	講義・演習(学級単位による授業)

年間授業計画

学期	月	単元	単元の目標	学習内容（実験・実習等）	時間	評価
1	4	数と式	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学ⅠAの全範囲における数学的な見方や考え方を身に付けている。	公式や定理などを復習してから演習を行う。 類似問題を解かせ、理解度を確認しながら進める。 理解度が低い場合は、そのテーマに絞った内容のプリントを準備し、重点的に指導する。 就職試験を意識させ、要求されるレベルを認識させる。	4	A:数学Ⅰ、Aの基礎的な内容に関心をもつとともに、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。 B:事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学Ⅰ、Aの基礎的な内容における数学的な見方や考え方を身に付けている。 C:数学Ⅰ、Aの基礎的な内容において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 D:数学Ⅰ、Aの基礎的な内容における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
	5				6	
	6	2次関数			6	
	7	図形と計量			6	
2	8	データの分析			2	
	9	場合の数と確率			8	
	10				8	
	11	図形の性質			8	
	12				6	
3	1	整数の性質			6	

教科名	英語	科目名	コミュニケーション英語Ⅰ	単位数	2単位
対象学年	第3学年	対象コース	総合情報ビジネスコース	履修形態	必修

科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。 1. 積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとすることができる。 2. 聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解することができる。 3. 話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えることができる。 4. 言語や運用についての知識を身につけ、背景にある文化を理解することができる。
学習内容の概要	1)情報や考えなどの受け手や送り手になるように具体的な使用場面を設定して、次のようなコミュニケーション活動を行う。 ア　英語を聞いて、情報や話し手の意向などを理解し、概要や要点をとらえる。 イ　英語を読んで、情報や書き手の意向などを理解し、概要や要点をとらえる。 ウ　聞いたり読んだりして得た情報をもとに、自分の考え・意見を表現し、書く。 2)上記のコミュニケーション活動を行う上で、以下の事項を踏まえる。 ア リズムやイントネーションなど英語の音声的な特徴に注意しながら、発音する。 イ コミュニケーション活動に必要となる基本的な文型や文法事項などを理解する。 ウ まとまりのある文章を音読し、英語の文章の流れに慣れる。 エ ジェスチャーなどの非言語的手段の役割を理解する。

科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	A:コミュニケーションへの関心・意欲・態度	B:外国語表現の能力	C:外国語理解の能力	D:言語や文化についての知識・理解
	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーション活動を図ろうとする。	外国語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	外国語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを適切に理解している。	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。

教科書、教材など	All Aboard! Communication English I(コ I 301)、 All Aboard! Communication English I WORKBOOK 基礎編(東京書籍)
授業形態	学級単位による授業

年間行事計画

学期	月	単元	単元の目標	学習内容(実験・実習等)	時間	評価の観点 A	B	C	D
1	4	Warm-Up 1 英語の音になれよう	[題材内容] 元々は英語であるが身近な日常生活の中に定着して日本語となったカタカナ語と、元々の英語の発音との違いについて学ぶ。	[言語活動] カタカナ語となった英語の発音を正確に聞き取り、発音する。	4	A:カタカナ語と英語の発音の違いに関心を持っている。間違いを恐れず積極的に発音しようとしている。	B:カタカナ語を元々の英語の発音で正確に発音できる。	C:カタカナ語の元となっている英語の発音を正確に聞き取ることができる。	D:カタカナ語と英語の元々の発音の違いを理解し、聞きわける知識がある。
		Warm-Up 2 アルファベットになれよう	[題材内容] 身近な日常生活の中にある場所を表す英語の単語を書き、発音を確認する。	[言語活動] 英語のアルファベットを使って単語を正確に書き、発音する。		A:単語を書く活動に積極的である。	B:アルファベットで語を正しく書ける。	C:発音された語を正しく聞き取れる。	D:アルファベットの大文字・小文字の違いを理解している。
		Warm-Up 3 よく使う表現になれよう	[題材内容] 学校生活の典型的な場面でよく使われる英語表現を学ぶ。	[言語活動] 学校生活の典型的な場面でよく使われる英語表現を理解し、実際に使ってみる。		A:言語活動で学んだ表現を積極的に使う。	B:場面に応じた表現を使って適切に話せる	C:相手の表現を正しく聞き取れる。	D:学校の日常生活で使われる基本的な表現を理解している。
		Pre-Lesson 1 2 種類の動詞	[言語材料] be 動詞 / 一般動詞			D:be と一般動詞の別を理解している。			
		Pre-Lesson 2 否定文と疑問文	[言語材料] be 動詞の否定文と疑問文 / 一般動詞の否定文と疑問文			D: be の否定文と疑問文 / 一般動詞の否定文と疑問文を理解している。			
	5		[題材内容] 日本人の高校生が海外の高校生と E メールを交換し自己紹介する。	[言語材料] 動詞の過去形 [言語活動] 自己紹介をする	6	A:積極的に英語で表現しようとする。	B:定型表現を使って自己紹介ができ、話そうとすることを正確に伝えられる。	C:書かれたものを正しく読み取れる。	D:過去形の基本的な知識がある。

	6	Lesson 2 A Letter to Australia 両親への手紙	[題材内容] 留学生が日本の伝統文化である和太鼓演奏を通じて感じたことを両親に手紙で伝える。	[言語材料] 現在進行形/過去進行形 [言語活動] 手紙で報告をする	6	AB:学校生活の報告について関心を持ち、意欲的に読んだり聞いたりして、積極的に学校生活を報告しようとする。
						C:学校生活について書かれた情報を読み取れたり大切な部分を聞き取れる。
						D:英語で手紙が書ける。現在・過去進行形の基本的知識がある。
		文法のまとめ 1	[言語材料] 二種類の動詞 / 否定文と疑問文 / 動詞の過去形 / 進行形 / 文の構造を知る 1			D:二種類の動詞/否定文と疑問文/動詞の過去形/進行形の理解がある。 補語と目的語の違いを理解している。
		Communication 1 朝のあいさつ		[言語活動] 朝のあいさつの場面における会話を聞いたり、よく使われる表現を使ってあいさつを交わす。		A:挨拶に使われる表現を積極的に使い、理解できなくても推測しようとする。
						B:挨拶に相応しい表現を選び、リズムやイントネーションなどに注意して話す。
						C:質問を聞き取り、適切に応じる。リズムやイントネーションなども聞き取れる。
						D:あいさつの場面にふさわしい話題や表現を理解している。
	7 8	Lesson 3 *Kawaii* Culture カワイイカルチャー	[題材内容] 日本のマンガやアニメについての海外の若者の対話を通して海外で日本の「カワイイ」文化がどう見られているかを学習する。	[言語材料] 助動詞(can / should / will) [言語活動] 感想を述べる	6 2	A:日本の「カワイイ」カルチャーの海外での人気の背景に関心があり、間違いを恐れず感想を述べようとしている。
						B:相手の発言に適切に感想を述べたり今後の予定を適切に伝えたりできる。
						C:このカルチャーについての考えを正確に読み取ったり聞きとることができる。
						D:助動詞(can / should / will)の表す話し手の心情や考えを理解している。
		翻訳にチャレンジ 1 Solution		[言語活動] 英語で書かれた漫画のせりふを日本語に訳す。		A:間違いを恐れずに積極的に翻訳しようとしている。必要に応じて辞書を使う。
						B:適切な表現を選び日本語に翻訳できる。理解してもらえる工夫をしている。
						C:登場人物の気持ちや場面を読み取ることができる。
						D:場面や状況にふさわしい表現を知っている。日本の食文化を理解している。
		Let's Listen 1 フリーマーケットで買い物		[言語活動] フリーマーケットで買い物する場面での会話を聞き、概要を理解し、よく使われる表現を聞き取る。		A:理解できずとも推測して聞き続ける。
						B:値段を尋ねたり、答えたりする表現を正確に使える。
						C:値段や金額を表す数字を正しく聞き取れる。
						D:フリーマーケットという風俗習慣を理解し、買物での表現を理解している。
2	9	Lesson 4 A Symphony of Soup and Noodles すばらしきラーメンの世界	[題材内容] 日本の国民食となったラーメンの背景や魅力について学ぶ。	[言語材料] 不定詞 [言語活動] 誘う	8	A:国民食のラーメンに関心を持ち意欲的に聞き、読む。また積極的に食べ物の話をし、ペアワーク等で協力する。
						B:自分の好きな食べ物を正確に伝える。定型表現で食事に誘うことができる。
						C:ラーメンについて書き手の考えを正確に読み取ったり聞きとることができる。相手に適切に応じることができる。
						D:国民食となった背景や理由を理解しており、誘う場面で使う表現がわかる。
	10	Lesson 5 Lifelong Friends 外国語学習のすすめ	[題材内容] 外国語学習の意義について、お笑いコンビ「パックンマックン」の対話を通して考える。	[言語材料] 動名詞 [言語活動]相づちを打つ	8	A:外国語学習方法に関心を持ち、意欲的に読んだり聞いたりする。ペアワークで相手から情報を引き出そうとする。
						B:自分の好きなことを聞き手に正確に伝え、相手の理解に応じて話せる。
						C:外国語学習について正確に読み取り、聞いた内容に対して適切に応じる。
						D:コミュニケーションにおける相づちの重要さと、そのための適切な表現を理解している。動名詞の知識がある。
	11	Reading 1 Short Stories in English	[題材内容] Short stories を読み場面や心情を読み取って英語のユ	[言語活動] 登場人物の気持ちを考えながら音読する。	8	A:理解できなくても推測して読み続け、間違いを恐れずに音読に取り組む。
						B:強勢や区切り、語と語の繋がりに注

	11		ーモアを理解する。		8	意し、場面や心情に応じて音読できる。
						C:対話における大切な情報を読み取り、文章の目的に応じた速さで読める。
						D:場面や心情による強勢やイントネーションの違いを理解している。
	12	文法のまとめ 2	[言語材料] 助動詞/不定詞/動名詞 /There is [are]～ 接続詞 when /文の構造を知る 2		6	D：助動詞/不定詞/動名詞/There is [are]~/接続詞 when を理解している。目的語 2 つとる動詞を理解している。
		Communication 2 コンビニで買い物		[言語活動] コンビニでの買い物の場面における会話を聞いたり、よく使われる表現を使ってペアで対話をする。		A:コンビニでの買い物の表現を積極的に使い、理解できなくても推測して聞く。
						B:コンビニでの買い物の表現を選択し、rhythm、intonation に注意する。
						C：質問を聞き取って適切に応じ、rhythm、intonation に注意して聞く
						D:買い物の話題や表現を理解し、状況や場面による強勢等の違いがわかる。
3	1	Lesson 6 A Funny Pictures from the Edo Period 奇想天外な浮世絵師	[題材内容] 日本の現代マンガのおもしろさにつながる江戸時代の浮世絵師、歌川国芳についてスピーチをする。	[言語材料] 受け身 [言語活動] 描写する	6	A::歌川国芳に関心を持ち積極的に読み聞き間違いを恐れず絵などを描ける。
						B:絵や写真の描写に適切な表現を用いて、自分の考えを述べ、書ける。
						C:国芳の紹介を読み、概要や要点を捉え、事実とさおりの考えを分けて読める。
						D:国芳の浮世絵と現代マンガの関連性を理解し、絵や写真の描写表現を理解する。受け身の知識はある。

教科名	外国語	科目名	英語会話	単位数	1単位
対象学年	第 3 学年	対象コース	総合情報ビジネスコース	履修形態	必修
科目の目標	The objective of this subject is to exercise the students English listening & speaking skills.				
学習内容の概要	The students will be introduced to a number of topic/theme based lessons. Firstly an understanding of the topic/theme based monologue/dialogue will be achieved. Secondly the students will be required to practice & present the monologue/dialogue in a presentation format.				

科目の評価基準（観点及びその趣旨）	A:Vocabulary	B:Listening	C:Speaking	D:Presentation skills
	Vocabulary tests will be conducted covering the vocabulary used in each dialogue.	Listening comprehension tests will be conducted covering the key expressions used in each dialogue.	The students will be graded on an oral English presentation they will be required to do using the target dialogue.	The students will be graded during their oral English presentation on their use the presentation skills they have been taught.

教科書教材など	Select - English Conversation (Sanseido)
授業形態	Students will work in small groups

年間授業計画

月	単元	学習内容	単元の目標	時間	評価の観点 A	B	C	D
4 5	Talking on the phone	Greeting & talking on the phone	This is 00 speaking …	2 3	Vocabulary / listening comprehension tests and a graded presentation will be conducted for each study unit.			
6 7	Telling the way	Explaining how to go somewhere on foot	Where is the … It's …	3 3				
8 9	Kyoto	Explaining how to go somewhere using public transport	How do I get to … Take the …/ Change at …	1 4				
10	Shopping	Buying something from a shop	May I help you. What size/color… How much is it. It's …	4				
11	Restaurant	Ordering a meal	I'll have a …	4				
12	A Plan	Making a plan to meet someone	Are you free on …, Let's play … Where shall we meet?	3				
1	Jobs	Asking someone about their future job plans	What do you want to be in the future? I want to be a …	3				

教科名	家庭	科目名	家庭基礎	単位数	2単位
対象学年	第3学年	対象コース	総合情報ビジネスコース	履修形態	必修
科目の目標	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。				
学習内容の概要	少子高齢化への対応や持続可能な社会の構築、食育の推進、男女共同参画社会の推進等を踏まえて、自立して生活する能力と異なる世代とかかわり、共に生きる力を育てることを重視している。人の一生を見通し、衣食住生活についての科学的な理解を深めるとともに、授業以外の生活設計の学習を通して、生涯にわたってこれらの能力を活用して課題を解決できるようにする。				

科目の評価基準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	家庭や地域の生活について関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身につけている。	家庭や地域の生活について課題を見いだし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身につけている。	家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身につけている。	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身につけている。

教科書、教材など	教科書：図説　家庭基礎（実教出版）副教材：ニューライブラリー（実教出版）
授業形態	講義について：学級単位による授業　実験実習について：グループによる展開

年間授業計画

学期	月	単元	単元の目標	学習内容（実験・実習等）	時間	評価
1	4 5 6 7	オリエンテーション 第一編 人とかかわって生きる	人の一生を生涯発達の視点で捉え、青年期の生き方を考えさせるとともに家族・家庭の意義や家族・過程と社会とのかかわりについて理解させ、男女が協力して家庭を築くことの重要性について認識させる。	授業の進め方について 第1章　自分らしい生き方と家族	4 6 6 6	人の一生と家族・家庭について理解させる。 (関心・意欲・態度) ・現在の自分の生活の課題を発見しようとし、将来に向けて、その課題解決のために、意欲的に取り組もうとしている。 (思考・判断・表現) ・自分自身の生活を見つめ、自立へむけて課題を発見し、将来の発達課題ともかかわらせ自身の将来について思考、判断することができる。 (技能) ・自分自身について考えるワークシートや将来についてのレポートを通して、現在の自分の生活における課題をまとめることができる。 (知識・理解) ・人の一生における発達課題を理解している。
			子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉などについて理解させるとともに、さまざまな人々に対する理解を深め、生涯を通して共に支え合って生きることの重要性や家族及び地域や社会の果たす役割について認識させる。	第2章　子どもとかかわる 第3章　高齢者とかかわる 第4章　社会とかかわる		保育と高齢者福祉について理解させる。 (関心・意欲・態度) ・子どもの世界について、自分の子どもの頃を思い起こしながら、興味・関心を持ち、子どもの生活について、積極的にかかわりながら、理解しようとする。 子どもをとりまく状況について、現状を知り、その課題を見つけ、解決に向けて考えようとしている。 ・高齢社会の現状、高齢者の心身の特徴や生活について自分の身近な課題としてとらえ、積極的に知り、高齢者とかかわろうとしている。 ・生涯を通しての社会福祉・社会保障のしくみや地域での支え合いのしくみについて、自分のこととして考え、意欲的に理解しようとしている。

						(思考・判断) ・子どもの心身の発達、現在の子どもを取り巻く状況や子育ての環境について、課題を見つけ、解決への考えをまとめることができる。 ・高齢社会の現状や高齢者の生活を知ることにより、高齢者の自立した生活とは何か、自分の考えをまとめることができる。 ・社会福祉や生涯を通しての社会保障制度のしくみについて、現在の生活課題と関連させながら考えることができる。 (技能・表現) ・子どもとの接し方、子どもの衣食住にかかわる物づくりなどの技術を身につけている。 ・高齢社会の現状や課題について情報収集、調査・研究をし、課題解決に向けて考えをまとめることができる。 ・支え合う社会とは何かを主体的に考え、社会福祉についての考えをまとめることができる。また、社会に置いて自分のできることは何かを導き出すことができ、それを支えあいの活動などの実践にいかすことができる。 (知識・理解) ・生命の尊さ、子育ての意義について理解することができる。 ・高齢社会の現状や高齢者の心身の特徴について理解している。 ・社会福祉の意味、現在の社会福祉の状況、社会保障制度のしくみについて理解できる。
2	8 9 10 11	第二編 生活をつくる	栄養、食品、調理及び食品衛生などについて科学的に理解させ、食生活の分野に関心を持たせるとともに、必要な知識と技術を習得して安全と環境に配慮し、主体的に食生活を営むことができるようにする。	第1章　食生活をつくる	2 8 8 8	栄養、食品、調理、食品衛生などに関する基礎的な知識と技術を習得させる。 (関心・意欲・態度) ・食生活の自立にむけて、今の自分の食生活について、課題を発見し、その課題解決にむけての知識や技術を積極的に身につけようとしている。 (思考・判断・表現) ・栄養の機能と食品のかかわり、また食品の特性と調理との関係において、科学的な思考を身につけ、食品選択、栄養計算や献立作成など、実際の食事づくりにむけての判断ができる。 (技能) ・栄養・食品・調理に関する基礎的な知識をいかしながら、献立を作成することができる。 (知識・理解) ・自分自身の食生活の課題や食事の意義・役割、食生活をとりまく環境などについて理解できる。

	12		被服管理に必要な被服材料、被服構成などの基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、目的に応じて着装を工夫し、健康で快適な衣生活を営むことができるようにする。	第2章　衣生活をつくる	6	衣生活と家族の健康を理解させる。 (関心・意欲・態度) ・自分自身の衣生活の状況について関心を持ち、課題を発見し衣生活の改善・向上に積極的に取り組もうとする。 (思考・判断・表現) ・衣服材料・衣服管理・整理についての基礎的な知識を身につけ、実生活での衣服管理において、適切な判断ができる。 (技能) ・材料の選択、日常の被服管理の方法を習得するとともに、日常着の修繕など、管理に必要な縫製技術を身につけている。 (知識・理解) ・衣服材料の性能と特徴、衣服整理についての科学的な知識を身につけることによって、衣服を適切に選択し、管理することができる。
			住居の機能、住居と地域社会とのかかわりなどに必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、安全で環境に配慮した住生活を営むことができるようにする。	第3章　住生活をつくる		住生活と家族の健康を理解させる。 (関心・意欲・態度) ・住まいの機能、住空間の計画や住環境について関心を持ち、快適な住まいづくりや安全な住まいづくりに意欲的に取り組もうとする。 (思考・判断・表現) ・ライフステージと住空間の設計の関係、住環境について考えを深めることができる。 (技能) ・住まいの役割・機能について、地域の特徴などを踏まえて調査・研究ができる。 (知識・理解) ・住まいの機能・役割、またライフステージや家族構成などと住まいの関係などについて理解している。
3	1	第三編 消費者として自立する	生活における経済の計画、消費者問題や消費者の権利と責任などについて理解させ、現代の消費生活の課題について認識させるとともに、消費者としての適切な意思決定に基づいて、責任を持って行動できるようにする。	第1章　消費行動を考える 第2章　経済的に自立する	6	消費生活と環境を理解させる。 (関心・意欲・態度) ・近い将来の経済的自立を考えながら、家庭経済・国民経済のしくみや家計の特徴について、積極的に理解しようとし、短期・長期の経済計画について意欲的に取り組もうとしている。 ・自分の将来設計を職業選択、人とのかかわり、経済設計などを通して意欲的に考えようとしている。 (思考・判断・表現) ・現在の経済社会と家計との関係を考えながら、家庭の収入・支出・預金などについて、適切な考えを持ち、判断できる。 ・自分の生活設計について、生活資源の要素を考えながら、考えをまとめることができる。 (技能) ・経済的自立に向けて、短期・長期の経済計画にかかわる実習を通して、人生設計を組み立てることができる。 ・短期的・中期的・長期的な生活設計をすることができる。 (知識・理解) ・家庭経済・国民経済などの仕組みについて理解でき、短期・長期的経済計画の重要性を認識できる。 ・生活設計の必要性、意義について理解できる。

教科名	商業	科目名	電子商取引	単位数	2 単位
対象学年	第 3 学年	対象コース	総合情報ビジネスコース	履修形態	必修

科目の目標	情報通信ネットワークを活用した商取引や広告・広報に関する知識と技術を習得させ，情報通信ネットワークを活用する意義や課題について理解させるとともに，情報通信技術を電子商取引に応用する能力と態度を育てる。
学習内容の概要	① 情報通信ネットワークを活用した商取引や広告・広報に関する知識と技術を習得する。 ② 情報通信ネットワークを活用することの意義や課題について理解する。 ③ 情報通信技術を電子商取引に応用する能力と態度を養う。 ④ 電子商取引にかかわる実践的な学習を通して思考力・判断力・表現力等を養う。 ⑤ 課題制作の発表を通してビジネスマナーやプレゼンテーション力など，ビジネスの諸活動に必要な資質を養う。

科目の評価基準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能・表現	知識・理解
	・ビジネスにおける電子商取引の必要性に気づき、商取引に情報通信技術を活用しようとする意欲を持って、電子商取引システムの構築に必要な知識や技能を積極的に学ぼうとしている。	・電子商取引システムを構築するために、目的に応じた機器やソフトウェアを選択して利用したり、顧客の立場に立ったデザインに加工する工夫を行うとともに、分かりやすい情報発信ができる。 ・知的財産権を意識したウェブデザイン設計を行うことができる。	・図形や静止画、動画、音声などのマルチメディアを利用した情報発信に必要な機器やソフトウェアの利用および、ウェブページの作成技法を身につけるとともに、これらを活用して電子商取引システムを作成できる。	・ビジネスにおける電子商取引の意義や役割を理解するとともに、ウェブページを用いて情報を効果的に伝えるための基礎知識や分析、企画・立案、制作、公開の手法を身につけている。

教科書、教材など	電子商取引（東京法令出版）
授業形態	講義及び実習

年間授業計画

学期	月	単元	単元の目標	学習内容（実験・実習等）	時間	評価
1	4 5	第1章 情報通信技術の進歩とビジネス ・ビジネスの変化 ・情報通信ネットワークの活用と課題	電子商取引の必要性について理解させる。 電子商取引における広告・広報活動の特徴と用途について理解させる。 情報通信ネットワークの実態について理解させる。 個人情報、知的財産権の保護の必要性について理解させる。	[講義] ・情報通信技術の進歩に伴うビジネスの形態や広告・広報活動の変化を扱う。 ・通信回線やインターネット接続サービスを提供する企業の役割及び電子商取引に伴う個人情報や知的財産の保護を扱う [実習]	4 6	・授業態度 ・ノート確認 ・発問評価 ・実習結果 ・問題集 ・定期考査
	6	第2章 コンテンツの制作 ・コンテンツのディジタル化とファイル形式 ・コンテンツの準備	図形・静止画・動画・音声などの特徴について理解させ、図形情報の効果的な利用方法を習得させる。 静止画データの取得方法やこれを活用するための技法を習得させる。 動画データの取得方法やこれを活用するための技法を習得させる。	[講義] [実習] ・図形、画像及び音声を統合する方法	6	

年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容（実験・実習等）	時間	評価
			音声データの取得方法やこれを活用するための技法を習得させる。			・授業態度 ・ノート確認
	7	・情報の統合	情報を統合することの意義や役割について理解させるとともに、情報を統合するための技法を習得させる。		6	・発問評価 ・実習結果 ・問題集 ・定期考査
2	8				2	
	9	第3章 ウェブデザインと広告・広報 ・ウェブページ制作の手順 ・デザインの基礎	ウェブページを制作するための手順について理解させる。 ウェブデザインの意義や役割について理解させるとともに、デザインの基礎的な知識を習得させる。	[講義] [実習] ・ウェブページ制作に必要な配色や構成などデザインの基礎 ・広告や広報に関するウェブページを制作必する方法 ・双方向で情報を送受信するウェブページを制作する方法及びデータベースと連携したウェブページを制作する方法	8	
	10	・ウェブページ制作の基礎 ・ウェブページ制作の応用① ・ウェブページ制作の応用②	HTMLの基本的なタグやスタイルシート(CSS)、JavaScriptの利用方法を理解させるとともに、ウェブページ作成ソフトウェアやワープロソフトウェアを利用する方法で、ウェブページを作成する基本的な技法を習得させる。		8	
	11	・ウェブページ制作の応用③	CMSの意義や役割について理解させる。		8	
		第4章 ウェブページの公開 ・ネットワーク機器の種類と機能 ・ハードウェアとソフトウェアの導入	通信ネットワークの仕組みや役割について理解させるとともに、ウェブページを管理・運営するために必要なネットワーク機器の基本的な知識を習得させる。	[講義] [実習] ・商取引や広告・広報を行うために必要なハードウェアを導入し、情報通信ネットワークを構築する方法及びウェブページを公開する方法		
	12	・ウェブページの公開	ウェブページを公開するための手順についてりかいさせるとともに、インターネットの基礎的な知識を習得させる。		8	
3	1	第5章 電子商取引とビジネス ・電子商取引のしくみ	電子商取引の意義や役割について理解させる。 電子商取引サイト開業に必要な手順を理解させるとともに、店舗運営を行うための基礎的な知識を習得させる。	[講義] ・情報通信ネットワークを活用して商品売買や金融取引を行う仕組み、電子商取引によるビジネスを始めるための手順及び電子商取引に関する法規を扱う	6	

年　間　授　業　計　画						
学期	月	単　元	単元の目標	学習内容 （実験・実習等）	時間	評　価
	2 3	・企業間取引と企業・消費者間取引 ・電子決済のしくみと方法 ・電子商取引システムの作成	取引対象が異なる電子商取引の違いについて理解させる。 電子決済の意義や方法について理解させる。 電子商取引を行うためのシステム構築方法を理解させるとともに、ウェブページ作成ソフトウェアやフリーソフトウェアを使って構築する技法を習得させる。	[実習] ・商品広告、商品販売、代金決済などのウェブページを制作し、模擬的な電子商取引のシステムを構築させる	6 4	・授業態度 ・ノート確認 ・発問評価 ・実習結果 ・問題集 ・定期考査

教科名	商業	科目名	ビジネスマナー	単位数	2単位
対象学年	第3学年	対象コース	総合情報ビジネスコース	履修形態	必修

科目の目標	・秘書検定3級の合格をめざす。 ・秘書検定3級の学習を通して、将来必要となるビジネスマナーの知識と技術の基礎を身につける ・自分が将来社会の一員となることを自覚した上で、自らの進路選択について適切に判断する力と、進路実現に必要となる、採用試験などで、自分を表現する力を養う
学習内容の概要	・あらゆるビジネスシーンで活きるビジネスマナー、一般常識、電話応対やレポートの書き方など社会人としての基本を学習する ・秘書検定3級の取得を目指す この検定は、人間関係やマナー、話し方を理解しているかなどが問われる検定 ・ロールプレイングを用いた体験学習や販売実習を通して、より実践的な力を育てる

科目の評価基準（観点及びその趣旨）	A 関心・意欲・態度	B 思考・判断	C 技能・表現	D 知識・理解
	・マナーに広い関心がある ・積極的、主体的に学習に取り組む姿勢がみられる	・検定に関する学習内容についての問題を適切に解決するために考え、実践するにあたり、学習内容を自分で判断できるか	・マナー検定の学習や、外部講師による講話から得た内容を自分で適切に表現できるか	・ビジネスマナーを学ぶ目的、方法を理解している ・円滑な人間関係を築くための方法を理解している

教科書、教材など	「秘書検定　実問題集　3級」（実務技能検定協会）
授業形態	講義

年間授業計画

学期	月	単元	単元の目標	学習内容（実験・実習等）	時間	評価
1	4	秘書の知識 秘書の技能	社会人としての資質	・社会人としての心構えや必要能力を知る ・適切な行動力、判断力表現力	4	・授業態度 ・発問評価 ・問題集 ・定期考査 ・検定結果
	5	秘書検定対策		・検定問題演習を繰り返し実施する	6	
	6	秘書検定対策			6	
	7	受付・接待演習		・受付、接待の基本的な知識、技術を身につけ、ロールプレイングで実践し習得する	6	
	8	受付・接待演習			2	
	9	電話応対演習		・電話応対について基本的な知識、技術を身につけ、ロールプレイングで実践し習得する	8	
	10	秘書検定対策		・検定問題演習を繰り返し実施する	8	
	11	秘書検定対策			8	
	12	慶弔業務演習		・お祝い袋、香典袋の書き方についての基本的な知識や技術を身につける。	6	
	1	秘書検定対策		・検定問題演習を繰り返し実施する	6	

教科名	商業	科目名	ビジネス情報	単位数	5 単位
対象学年	第 3 学年	対象コース	総合情報ビジネスコース	履修形態	必修
科目の目標	情報通信ネットワークの導入やソフトウェアの活用に関する知識と技術を習得させ、情報を効率的に処理する重要性について理解するとともに、ビジネスの諸活動においてコンピュータを適切に運用する能力と態度を身につける。				
学習内容の概要	・ 表計算ソフトウェアを活用した情報の収集、処理、分析の実習。 ・ オペレーションズリサーチの基礎的な内容の習得。 ・ データベース化することの意義や必要性及びデータベースの機能や役割の習得。				

科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	A 関心・意欲・態度	B 思考・判断	C 技能・表現	D 知識・理解
	ビジネスにおける情報の活用に関心を持ち、ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用しようとする。	情報をビジネスに活用するために目的に応じた機器やソフトウェアを選択して利用し、情報モラルを踏まえた適切な判断が出来る。	適切なソフトウェアを用い情報の管理や加工分析などの基礎的な技能を身につけビジネス情報の活用が出来る。	ビジネスにおける情報活用の意義と役割を理解するとともに、それを実践するために必要な知識を身につけている。

教科書、教材など	「ビジネス情報」(東京法令出版)
授業形態	講義及び実習

年間授業計画

学期	月	単元	単元の目標	学習内容(実験・実習等)	時間	評価
1	4	第2章 表計算ソフトウェアの活用			10	・授業態度 ・ノート確認
	5	・オペレーションズリサーチの基礎	在庫管理、線形計画法、待ち行列を理解し、シュミレーションを用いて適切な結果を予測する。	[講義] [実習] ・表計算ソフトウェアの操作	15	・発問評価 ・実習結果 ・問題集
	6				15	・定期考査
	7	・手続きの自動化	効率の良い処理を行うため、マクロを用いて自動化する。		15	
2	8	第3章 データベースソフトウェアの活用			5	
	9	・発展的なデータベースの作成	データベースの設計、作成、手続きの自動化について理解する。	[講義] [実習] ・データベースソフトの操作	20	
	10	・SQL	データベース言語のSQLを利用し、データベースの操作を行う。		20	
	11	第4章 ソフトウェアを活用したシステム開発 ・アルゴリズム			20	
	12		コンピュータに処理を行わせるための手順について理解する。		15	
3	1	・表計算ソフトウェアの活用 ・システム開発	表計算ソフトウェアのプログラミング機能を利用する。 手続きの自動化とユーザフォームを活用したシステム開発を理解する。	[講義] [実習] ・表計算ソフトウェアの操作	15	

教科名	商業	科目名	課題研究	単位数	2 単位
対象学年	第 3 学年	対象コース	総合情報ビジネスコース	履修形態	必修
科目の目標	表計算ソフトウェアの基礎的な知識・操作を学習する。基礎的な関数を学び、与えられた問題を理解し、素早く処理する応用能力、実務的能力を身につけさせる。また、表計算の応用・ポスター等の作成により幅広く表計算ソフトが使えるようにする。				
学習内容の概要	・全商情報処理検定2級基準の用語の学習　ハードウェア、ソフトウェア、通信ネットワーク ・集計処理、図形処理 ・ポスター作成、パワーポイントの利用				

科目の評価基準（観点及びその趣旨）	A 関心・意欲・態度	B 思考・判断	C 技能・表現	D 知識・理解
	ビジネスにおける情報の活用に関心を持ち、ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用しようとする。	情報をビジネスに活用するために目的に応じた機器やソフトウェアを選択して利用し、情報モラルを踏まえた適切な判断ができる。	表計算ソフトウェアを用いて情報の整理や加工分析などの基礎的な技術を身につけビジネス情報の活用ができる。	ビジネスにおける情報活用の意義と役割を理解するとともに、それを実践するために必要な知識を身につける。

教科書、教材など	全商情報処理検定模擬試験問題集2級（実教出版）
授業形態	講義・演習

年間授業計画

学期	月	単元	単元の目標	学習内容（実験・実習等）	時間	評価
1	4	コンピュータ2級の関数	コンピュータの応用的な仕組みや働きを理解。高度な関数の働きを理解及び図形作成。	・2級の関数 ・ワークシートの利用 ・集計処理、番地、並べ替え	4	・コンピューターの応用的な仕組みや働きを理解できたか。
	5	集計処理 図形処理		・関数の利用	6	・高度な関数を身につけることができたか。(A、C)
	6			・判定、論理演算 ・行方向、列方向の参照 ・行方向、列方向の検索	6	
	7			・順位付け、カウント ・最大値、最小値	6	
	8			・条件付き合計 ・応用的な図形処理	2	
	9	ポスター作成	表計算ソフトの活用及び働きを理解。	・ポスター作成	8	・ポスター作成により社会での表計算ソフトの応用力を身につけることができたか。(A、B、C)
	10				8	
	11	パワーポイントの応用	パワーポイントの活用及び働きを理解。	・パワーポイントを使ってプレゼンテーション	8	・プレゼンテーションによく使われるパワーポイントの使い方を身につけることができたか。
	12				6	・パワーポイントを使ってプレゼンテーションができたか評価する。(B、C、D)
	1				6	

教科名	保健体育	科目名	体育	単位数	3単位
対象学年	第3学年	対象コース	総合情報ビジネスコース	履修形態	必修
科目の目標	各種運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。				
学習内容の概要	体づくり運動、体ほぐし、体力を高める運動、各種目における基本技能の習得、各種目のルール等の知識習得、生徒の自主性によるゲーム運営と安全への意識の向上。				

科目の評価基準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	運動技能	知識・理解
	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるように、自ら進んで計画的に運動しようとする。	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指し、活動の仕方を考え、工夫している。	自己の能力と各種運動の特性に応じた技能を高め、体力向上のための合理的な行い方を身につけている。	運動の意義や必要性及び運動の特性と合理的な行い方理解し、知識を身につけているか。

教科書、教材など	特になし
授業形態	実技・男女別合併授業

年間行事計画

学期	月	単元	単元の目標	学習内容（実験・実習等）	時間	評価
1	4	オリエンテーション	年間計画を十分に理解し、授業に積極的に参加できるようにする。	授業の内容、方法、評価などについて説明する。	6	授業中の行動の観察
		体育理論	豊かなスポーツライフの設計の仕方。	ライフステージでのスポーツの楽しみ方を学習。		授業中の行動の観察 評価テスト（総時数6時間）
	5	体つくり運動	体つくり運動の特性を理解し、体をほぐしたり体力を高めたりする。	城北体操の習得。	9	授業中の行動の観察 実技テスト
		新体力テスト	自己の体力と運動能力を把握する。	正しい測定を行い、自己の能力診断をする。		診断テスト結果
		器械運動	自己の能力に応じて運動技能を高め、技が円滑に出来るようにする。	マット運動の基本技能を習得する。		授業中の行動の観察 実技テスト
	6	陸上競技	自己の能力に応じて運動の技能を高め、競技したり記録を高める。	各種目の基本技能の習得。	9	授業中の行動の観察 実技テスト
	7	バレーボール ソフトボール	自己の能力に応じて運動技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームが出来るようにする。	基本動作を習得し、協力してゲームが出来るようにする。	9	授業中の行動の観察 実技テスト
2	8				3	
	9	サッカー	自己の能力に応じて運動技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームが出来るようにする。	基本動作を習得し、協力してゲームが出来るようにする。	12	授業中の行動の観察 実技テスト
	10				12	
	11	バスケットボール			12	
	12				9	
3	1	バドミントン	自己の能力に応じて運動技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームが出来るようにする。	基本動作を習得し、ペアで協力してゲームが出来るようにする。	9	授業中の行動の観察 実技テスト 授業中の行動の観察 作品の評価 ※年間を通して出席状況